

安心して暮らしつつづけられる新潟市へ 全力

シニア半わり(高齢者のバス運賃半額制度)の改善を市に求める

「シニア半わり」は、65歳以上の方が「りゅーとカード」を「シニア半わりカード」に切り替えるか、新たに「シニア半わり」カードを申し込むと新潟交通のバス運賃が半額になるという制度です。高齢者の長年の要望が実りました。

ところが、その受付が市役所分館で8月29日から9月2日の間に限定されており、それ以降は新潟交通のバスセンターか営業所でのみの受付とされていることから、「身近な場所で受付を」という声があがっていました。

市議団は8月22日、①申込み窓口は、期間延長も含め、区役所など市民の身近な場所で受け付けるよう改善すること②今後、高齢者の公共交通無料化も視野に検討を進めること一の2点を市に申し入れました。



市側は、身近な場所での受付について「そういう市民の声は聞いている」とし、「検討する」と答えました。



また、「教育の支援」として、国に給付型奨学金制度の創設を求めるとともに、市の制度として奨学金返済への助成制度をつくること。「生活の支援」のため、学校給食は無料とすることなどを提案しました。

新潟市の生活保護受給世帯は、2005年度の5195世帯から2015年度の8832世帯へと増大しており、新潟市でも貧困が広がっています。五十嵐議員は6月議会で、子どもの貧困の実態調査を行い、数値目標を掲げた「子どもの貧困対策計画」を策定して実効ある取り組みを行うよう市に求めました。

今や貧困は特別なことではなく、失業や倒産、病気や親の介護など、誰にでも起こりうる事情で貧困に転がり落ちてしまうのが日本社会の現実です。子どもの6人に1人が貧困状態にあると言われています。こうした状況のもと、2013年に国会で「子どもの貧困対策推進法」が成立。翌年、政府は子どもの貧困対策を総合的に推進するための「大綱」を閣議決定。新潟県も今年4月に「子どもの貧困対策推進計画」を策定しました。

子どもの貧困対策の計画策定を求める



五十嵐完二

五十嵐完二議員は、市民の切実な声を取りあげて議会質問するとともに、地域のみなさんとともに市役所や区役所に働きかけ、要望の実現に力をつくっています。

住みよいまちに

地域の声・要望が実る

五十嵐議員は、この間よせられた地域要望の実現を東区等に働きかけてきましたが、要望が次々と実ってきています。

古川町と北葉町の間で第四銀行や大光銀行に面する道路に轍(わだち)ができ、雨の日に車が通ると、歩道の通学児童にも水しぶきがかかることがありました。東区と交渉し、梅雨の前には道路の舗装が新たに行われ、轍もなくなりました。

大山台からの雨水が落ちてくるため、北葉町方面への側溝は深く、雨の日は水量もあり落ちたら危険でした。自治会からの要望を東区に伝え、坂道になっている区間の側溝にフタをする工事がおこなわれ完成しました。

そのほか、藤見町のフジミショッピング前の道路の振動問題や、白銀町の側溝に泥水がたまる状況の訴えが寄せられたことにも対応し、実現または実現の方向となっています。



大山台の坂道の側溝にフタが設置されました



「新潟市の国保をよくする会」に参加する民医連、新潟民商、新婦人新潟支部、新潟生活と健康を守る会の4団体は、8月23日と30日、「国保110番」に取り組みました。市議団からは、「高すぎて払いたくても払

国保110番に 取り組む

いきれない国保料」の実態や、滞納を理由にした差し押さえの実態などを、五十嵐完二議員ら5人の議員が市民から寄せられる相談に対応しました。

